

**製品名: DOCK 180 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab10100**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	215kDa

**抗原情報**

遺伝子名	DOCK1
別名	DOCK1; Deducator of cytokinesis protein 1; 180 kDa protein downstream of CRK; DOCK180
遺伝子 ID	1793.0
SwissProt ID	Q14185
免疫原	抗血清はヒト DOCK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1661-1710

**背景**

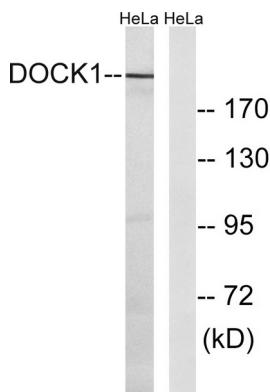
この遺伝子は、細胞質分裂タンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。細胞質分裂タンパク質は、小さな Rho ファミリー G タンパク質のグアニンヌクレオチド交換因子として機能します。コードされているタンパク質は、小さな GTPase Rac を制御し、そ

れによって貪食や細胞移動などのいくつかの生物学的プロセスに影響を与えます。この遺伝子の過剰発現は、特定の癌にも関連付けられています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2014年3月],ドメイン: DHR-2ドメインは、GEF 活性に必要かつ十分です。機能: アポトーシス細胞の貪食と細胞運動に必要な細胞骨格の再編成に関与しています。グアニンヌクレオチド交換因子 (GEF) として機能し、結合した GDP を遊離 GTP に交換することで Rac Rho 小さな GTPase を活性化します。GEF 活性は ELMO1 によって増強される可能性がある。類似性: DOCK ファミリーに属する。類似性: 1つの DHR-1 (CZH-1) ドメインを含む。類似性: 1つの DHR-2 (CZH-2) ドメインを含む。類似性: 1つの SH3 ドメインを含む。細胞内局在: ホスファチジルイノシトール 3,4,5-三リン酸との相互作用を介して膜にリクルートされる。サブユニット: 複数の部位を介して CRK および NCK2 の SH3 ドメインと相互作用する。ヌクレオチドフリー RAC1 は DHR-2 ドメインを介して相互作用する。ELMO1、ELMO2、そしておそらく ELMO3 は SH3 ドメインを介して相互作用する。RAC1 および BAI1 と相互作用する。組織特異性: 胎盤、肺、腎臓、脾臓、卵巣で高発現する。胸腺、精巣、結腸では中程度の発現を示す。、

## 研究分野

接着斑;アクチンと細胞骨格を調節します。

## 画像データ



DOCK1 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。